

<訂正用>

第12号

1996年12月

社會經濟史學會中國四國部會

會報

(発行)

会報編集委員会

岡山大学経済学部内
岡山市津島中3-1

1. 1996年度 総会記録

1996年度総会は、11月2日(土)、大会第1日目の報告ののち、事務局員の在間宣久氏の司会で、30分遅れて5時30分から開かれました。代表理事の神立春樹氏の挨拶のあと、次のような報告・議案が提出され、了承されました。

(1) 1996年度事務報告 1996.11.2

ア. 活動報告

- ・ 1995.12.24 : 会報第10号の発行・送付
- ・ 1996. 3.6 : 研究大会不明事項照会発送
- ・ 7.8 : 会報第11号の発行・送付、
 <研究会報告論題一覧表作成>
 大会開催予告、発表申込の受付など連絡
- ・ 8.26 : 理事会開催通知
- ・ 9.7 : 理事会開催(於、岡山大学経済学部410号室)
 参加者: 及川 順(山口)・道重哲男(広島)
 ・神立春樹・在間宣久・森元辰昭
 (以上岡山)・村山 聡(香川大学、大会開催校代表)
- 議 題:
 1. 報告者・報告論題、司会者の決定
 2. 1998年度大会開催地について-高知大学にお願いする。
 3. 理事(広島)小川國治氏(東亜大学)辞任申出の件。
- ・ 9.11 : 報告者・報告論題決定通知

以後は、開催校(香川大学)による大会諸準備に入った。

・ 10.7 : 理事会結果報告(理事宛)

イ. 会員の状況

1995年度会員 157名(1995.11.5現在)
 1996年度会員 153名(1996.10.31現在)
 増減内訳 : <退会者>

中村郁三(山口-死去)、大井義雄(山口-不明)、清水兵祐(愛媛-不明)、植村正治・足立圭介-不明、小都勇二(広島-退会)、作道洋太郎(大阪-退会) 以上 7名

: <新規加入>

友部謙一(徳山大学)

: <名簿脱落>

田村安興(高知大学)

細川 滋(香川大学)

: <名簿訂正-住所変更など>

・ 富澤芳亜 島根大学教育学部 〒690
 松江市菅田町208-80 木村7A°-ト2F
 Tel 0852-28-0312

・ 相良英輔 島根 〒690 松江市
 菅田町8-9 Tel 0852-27-2788

・ 川井 悟 岡山 〒710 倉敷市
 西富井652-8 Tel 086-427-0218

・ 尾川 弘 広島 〒735 広島県
 安芸郡府中町鶴江1-17-21
 Tel 082-581-2483

・ 田村安興 高知大学 〒780 高知市
 神田965-1 Tel 0888-33-9693

・ 松野尾裕(愛媛) → 松野尾 裕

(2) 1996年度会計報告-以下の報告がなされ、
了承された。

1996年度会計報告 (1995.11.6~1996.11.3)

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	206,482	ゴム印代 (事務局住所)	7,674
会費徴収 (10/31現在)	164,000	封筒・切手代	43,096
92年度 6口 6,000		会報等用紙代	3,560
内 93年度 9口 9,000		葉書代	1,750
94年度 15口 15,000		ファイル代	865
訳 95年度 35口 35,000		大会補助費 (11/2)	30,000
96年度 82口 81,000		理事会弁当代 (11/2)	15,000
97年度 8口 8,000			
98年度 6口 6,000		小 計	101,945
99年度 2口 2,000			
2000年度 2口 2,000		次年度繰越金	292,584
寄付金 (95年度山口大会実行 預 金 利 子 委員会)	23,430 617		
合 計 (10/31現在)	394,529	合 計 (10/31現在)	394,529

(3)大会決定事項

ア. 役員人事

- ・ 小川國治広島理事の辞任、顧問就任の承認
 - ・ 関田英里 (高知) 理事の辞任と田村安興氏の就任について、双方に連絡・確認を事務局に一任すること。
 - ・ c f. 理事の定員については、1県1人を原則とするが、会員数の多い岡山・広島は2名とする。ただし、代表理事は除く。
 - ・ 顧問就任については、小川國治氏は年齢も高いこと、その他顧問にふさわしいことで就任を願うこととした。
- イ. 次回の開催校：広島大学にお願いする。
場所は、旧広島大学経済学部の予定。
- ウ. 次々回の開催校：高知大学にお願いする。

1997年度役員一覧

代表理事 神立春樹
理 事 松尾 寿 (島根)、下野克己・
森元辰昭 (岡山)、道重哲男・加藤房雄
(広島)、及川順 (山口)、伊丹正博
(香川)、三好昭一郎 (徳島)、平田桂一
(愛媛)、関田英里 (高知)、中山精一
(鳥取)

監 事 辻岡正巳・太田健一
幹 事 井上 洋、千田武志、安蘇幹夫
顧 問 内藤正中、比嘉清松、奥田秋夫、
渡辺則文、高橋 衛、小川國治

事務局 森元辰昭 (事務局長)、在間宣久
社会経済史学会理事 岩橋 勝、神立春樹
事務局 〒700 岡山市津島中3丁目1番地
岡山大学経済学部 電話 086-252-1111
(代表) 内線7535 直 通 086-251-7535
F A X. 086-253-1449 (経済学部事務部人
事係に設置)
郵便振替口座番号 01290-4-12846
(加入者：社会経済史学会中国四国部会)

2. 1996年度 大会報告

1996年度大会は11月2(土)、3日(日)の両日、香川大学教育学部を会場に開かれました。今年度は、報告数、第2日目のパネル・ディスカッションのため、第1日目を2会場に分けて開くことになりました。両会場とも次の5報告がなされ、活発な討論が展開されました。

〔研究報告〕

《第1日目-第1会場 日本関係》

- (1) 大正期ろう石鉱山における企業労働形態—岡山県東備の大平鉱山の場合—
吉永町史編集室 仙田 実
- (2) 明治期の関門地域における企業者活動—旧長府藩士豊永長吉の事績を例として—
早稲高等学校 畠中 茂朗
- (3) 日本の農地減少について
岡山大学大学院 李 健
- (4) 漁船動力化の動向—1915~1940年における—
岡山大学大学院 熊谷 正文
- (5) 幕末期長州藩領における貢租収納と農民経営の動向—
小郡宰判岐波村を事例として—
広島大学大学院 尾川 弘

《第1日目-第2会場 外国関係》

- (1) 東アジアの国家と領土制
崇徳高等学校 小野 寺直日
- (2) 15・16世紀の朝日綿布貿易について
広島修道大学大学院 金 永 徹
- (3) 戦後日本高等学校における職業教育の歩み—中国現在職業教育の観点から—
岡山大学大学院 鞠 玉 華
- (4) 16・17世紀におけるインド都市史への接近
松山大学 平 田 桂 一
- (5) 戦後改革期におけるタバコ民営化論の検討—英米タバコ・トラストと日本—
大阪市立大学大学院 村 上 了 太

《第2日目-》

パネル・ディスカッション

『宗門帳』と家族・人口・地域史研究の可能性—美作および備前の事例より—

- (1) 主旨説明
- (2) 美作および備前の宗門帳
香川大学 村 山 聡
- (3) 近世後期津山町方の通婚圏
名古屋大学 溝 口 常 俊
- (4) 藩士社会の階層と通婚
慶応義塾大学大学院 磯 田 道 史
- (5) 近世民衆の産の心性
順正短期大学 沢 山 美 果 子
- (6) ディスカッション
コメンテーター：鬼頭 宏(上智大)
コメンテーター：落合恵美子(日大研)

3. 大会参加記

(1) パネル・ディスカッションを主催して
香川大学 村 山 聡
香川大学において開催された1996年度の大会において、「『宗門帳』と家族・人口・地域史研究の可能性—美作および備前の事例より—」と題して、以下のようなプログラムでパネル・ディスカッションを主催した。

- 1 主旨説明
- 2 美作および備前の宗門帳
報告者：村山 聡(香川大)
- 3 近世後期津山町方の通婚圏
報告者：溝口常俊(名古屋大)
- 4 藩士社会の階層と通婚
報告者：磯田道史(慶大院)
- 5 近世民衆の産の心性
報告者：沢山美果子(順正短大)
- 6 ディスカッション
コメンテーター：鬼頭 宏(上智大)
コメンテーター：落合恵美子(日大研)

このパネルの目的は、文部省科研費(新プロジェクト)の補助を受けている通称「ユーラシアプロジェクト」の内容を紹介し、現在の研究成果の一部を発表することにあつた。

このプロジェクトでは、近世を中心に各地の人口関係史料に基づいて、人口史・家族史研究の対話による国際比較を行なっている。日本の場合は「宗門帳」を中心に、現在各地の資料情報の収集ならびにマイクロ化などによる史料収集を行なっている。今後、中国四国地方の各地域についてもさらに史料収集を行なっていく予定であり、今回の大会での報告によって、本プロジェクトの主旨を多くの人々に伝えると共に、史料収集等における今後のご協力を仰ぎたいと考えた。

このパネルでは、研究グループの中で西日本地域の宗門帳の収集ならびに日本の地域性研究などを分担している者を中心にして、美作および備前を中心に行なってきた目録の整理や史料分析の成果の一部を発表した。歴史地理学、近世日本史、女性史、経済史などの様々な専門分野に属する研究者による個別の報告ならびに、歴史人口学そして家族社会学の専門家をコメンテーターとして加えた討議により、宗門帳分析の意義と限界そして新たな史料分析との組み合わせの可能性などを美作ならびに備前という地域を舞台に検討した。

村山報告では、美作および備前の宗門帳の整理状況を報告し、史料収集における日本特有の事情をドイツとの比較において明らかにし、さらに宗門帳の史料的価値を改めて確認するとともに、今後の分析可能性を提示した。特に、天保の危機の時代が地域的に非常に多様な問題をはらんでいることを明らかにし、今後の家族史研究と社会経済史研究が地域史において総合される可能性を示唆した。

続いて溝口報告では、城下町津山の宗門帳の分析結果に関して報告がなされた。これまで多くは村落研究が中心であった宗門帳の家族史・人口史研究にとって、城下町津山の宗門帳の史料的価値を、特に通婚圏に着目して明らかにした。一地区だけでなく、都市全域に関して、複数年度人別改帳が残存しているのは貴重である。江戸時代の城下町内部の家

族、人口およびその移動に関する情報が得られるという意味で非常に興味深い。今後、町奉行書日記などの記述史料と照らし合わせることによって、さらに充実した研究の進展が期待されると同時に、美作地方の村落研究と協力していくことによって、新しい江戸時代の像を獲得していくことも夢ではないかもしれない。

第三番目の報告である磯田報告は、すでに完成度の高い内容になっている。宗門帳の分析は史料上の性格から、基本的に農民層、そして溝口報告にあったような町民層の研究に限られる。農民層の人口史・家族史研究が進展していくなかで、武士階層に関する研究の進展も望まれていた。岡山藩士の婚姻願いに関するデータの大量分析を通じて、従来から主張されていた降嫁婚説に対して、同類婚説が新たに提示された。つまり、家高・禄高相応の縁組が全体の傾向であり、また、藩内婚と藩外婚の比率、婚姻ネットワーク、あるいは百姓などの武士以外との通婚などにおいては、まさに地域の事情が細かく影響していることが分かる。ここでも地域史研究の重要性が示されていると考える。

続いて報告としては最後の沢山報告では、人口学的な統計分析では必ずしも十分にカバーすることのできないメンタリティの問題に関して、江戸時代の「産」の意味そして城下町津山に焦点を合わせて、多様な史料を複合的に読み解いていくことによる成果が報告された。民衆が直接語ることのない身体観を明らかにするというのは非常に困難な課題である。そしてそれも「赤子間引き取り締まり」のように行政側の意図との相互関係の中で揺れ動くものだけに解明するのは容易ならざるものである。しかし、人口、家族を語るものにとって、身体の意味とその自己理解を無視して議論を推し進めることは、後世の人間の価値判断の新たな押し売りの可能性をはらむことにもなる。数量的な分析の成果や地域史

的な研究との今後の対話がさらなる研究の進展を確約すると考える。

以上の4報告に対して、歴史人口学を専門とされる鬼頭氏のコメントは、一般に歴史人口学と呼ばれている内容は、「歴史民勢学」として理解すべきであり、人々の多様な生き方が問題にされるべきであるとして、家族史研究や家族社会学の研究との対話は当然のことであり、また広く比較文明的な方向も存在していることを明らかにされた。また、従来、数量的なマクロ分析は、家族の質や意味を問題にできないと一方的な批判を受けやすいものであったが、現在は分析手法も格段に進展し単なる機能論的な数量分析の域を越えていることに注意を向けられた。また、学者、研究者および大学関係者だけに限られた研究成果を地方史研究や地方の諸機関の関係者の集う場でその研究の意味を問おうというこのパネルの試みを非常に新鮮なものとして高く評価して頂いた。ただし、そのような意味で、多様な地域ネットワークに基づく歴史の共同研究の今後の可能性をどのように考えるべきなのか、と改めて主催者側に問いが投げかけられた。地方における歴史研究の蓄積と研究機関等における研究成果との相互の対話やネットワークが重要であり、さらにそのようなネットワーク関係は史料の収集や保管方法等においても問題にされるべきである。

最後に、ユーラシアプロジェクトの紹介をかねて、国際日本文化研究センターの落合氏からコメントを頂いた。このプロジェクトは4分野から構成されており、1) 幕末から明治にかけて一地方全体をカバーしている史料の検討、2) 100年から150年という長期にわたって宗門帳が残されている村落などに関する比較研究、3) 明治統計に関する日本全国の統計分析、そして4) スウェーデン、ベルギー、イタリア、中国、日本の国際共同比較研究である。このプロジェクトを進行させていく上で、特に世帯構成や世帯の継承、特に

養子に関する問題点を明らかにされ、先の四つの報告に対する個別の質問が提示された。

確かに、高度な分析方法による卓越した歴史分析は注目的になる。しかし、歴史は地方に生きている人々にとってこそ、最も重要な意味を有していると考える。様々な高度な分析や国際比較の成果をもう一度地方の歴史に関心のある人々に投げ返す必要があると考える。というのも、地方の歴史は地方に生きる人々の共有財産であると考えからである。より高度なそして様々な比較分析から得られた成果はその共有財産の質を高め、逆に、学問研究の意味そのものの評価が再検討されることになると思う。今回のパネル・ディスカッションの成果や批判点は、今後の研究の糧として、我々の研究グループだけでなく、広く共有されることを期待するものである。

(2) 96年度大会参加記

慶応大学大学院 磯田道史

讃岐路の秋と香川大の学園祭。二つの楽しさも加わり、まさに幸多き大会であった。第一日目は第一会場(日本関係)で午前^後の3報告をきかせていただいた。

最初の報告は仙田実氏の大正期ろう石鉱山の労働形態の報告であった。仙田先生は備前東部の近代史にお詳しく郡史・町史の編纂をはじめ、岡山県の地域史に多大な貢献をされている方である。報告では、聞き取り調査などをまじえた方法に特に興味をひかれた。

「労働」は経済と人間の混然とした問題である。そこに切り込むにあたって、氏は、前半、統計を使って量(経済)の分析をやり、後半、聞き取り情報によって質(人間)の分析をされるという方法をとられていた。

二番目の畠中茂朗氏は関門地域の企業者豊永長吉をとりあげ、日本の近代資本制・工業化の始動を考察された。明治初期に各地に現れた「企業者」の実像についてはいまだ十分

な研究がない。貴重な研究である。投資計画の策定過程、投入資本の原資追求など、この先、様々な研究展開がのぞめる分野であろうし、是非、今後とも報告を聞きたいと思った。

三番目の李健氏の報告は、日本の農地減少という現代的かつ実際的な問題に取り組んだものであった。中国はじめアジア諸国の急速な経済発展（脱農業化）のなかで、近い将来、穀物生産に世界的規模で問題が生じることを視野にいたした報告であった。それだけに、質問も多く、議論も活発であった。

二日目は私自身もパネラーとなった家族・人口・地域史のパネルであった。先進国の高齢化への対応、開発途上国での乳幼児死亡の多さ・女性の地位など、21世紀の課題に社会経済史は、どうかかわっていけるのか。電子情報化の時代に、歴史学はいかに展開すべきか。大げさにいうと、そんなことを考えながら準備した。自分にとっては、大変いい経験になったと思う。最後に、会場設営等でお世話になった香川大学の先生方と学生方に心からお礼申し上げたい。

4. 「会報」第13号予告

事務局では、次号の「会報」（第13号）を来年6月に発行する予定です。つきましたは、皆さんの原稿を募集します。

最近の研究成果や研究テーマ、消息など何でも結構ですので、事務局までお送り下さい。メ切は、5月末日とします。出来れば、フロッピーディスクも一緒にお送りください。MS・DOS 640KBをお願いします。

編集後記

今年も残りわずかとなりました。会報12号をお送り致します。今回は、1996年度大会の速報です。今年度の大会は、ご案内の通り第2日目はパネル・ディスカッション形式で行いましたが、例年になく参加者も多く、活気のある大会となりました。開催校香川大学の細川・村山先生をはじめ、遠路はるばる参集下さいましたパネラーの諸先生方に感謝するとともに、新視角からの「宗門帳」の研究が一層進展しますことを期待します。懇親会でも香川大学のご配慮のもと、格安の会費で催すことができました。大会参加記を村山聡・磯田道史両氏からいただきました。ありがとうございました。次号は6月に発行する予定です。皆さんの玉稿をお待ちしています。

よいお年を！！ (森元 記)



今回の大会に際し、「山陽新聞」（朝刊）11月30日号に以下のような紹介記事が掲載されました。これを見て、大会第2日目のパネル・ディスカッションに参加された方もいたと聞きました。

文化短信

社会経済史学会
中四国部会を開催
高松・来月2、3日
社会経済史学会中四国部会（代表幹事・神立春樹 岡山大学教授）が11月2、3日の両日、高松市幸町、香川

大教育学部で開かれる。初日は午後1時半から第1会場（日本）と第2会場（外国）に分かれ、幕末、明治、大正期の企業形態や、東アジアやインド、英米の近世社会の領土制、貿易法などについて10人がそれぞれテーマで報告する。

2日目は、午前9時半に開会。岡山県の著作、備前地方の江戸時代における人口調査の報告、パネルディスカッションを行う。当時の人口や家族形態を把握し、世界各國と比較することがねらい。

宗教上の名簿を基にした人口推測についての報告（著作も）の備前の宗門帳（村山聡香川大助教授）のほか、婚姻による人口移動、出産の考え方が与えた人口変動などから4人が言及する。その後報告要旨に沿って参加者がディスカッションする。
参加希望者は直接会場へ。参加費用は2日で1000円。問い合わせは神立さん（086-125-117535）。